



# 札幌市の雪対策

建設局 雪対策室 計画課

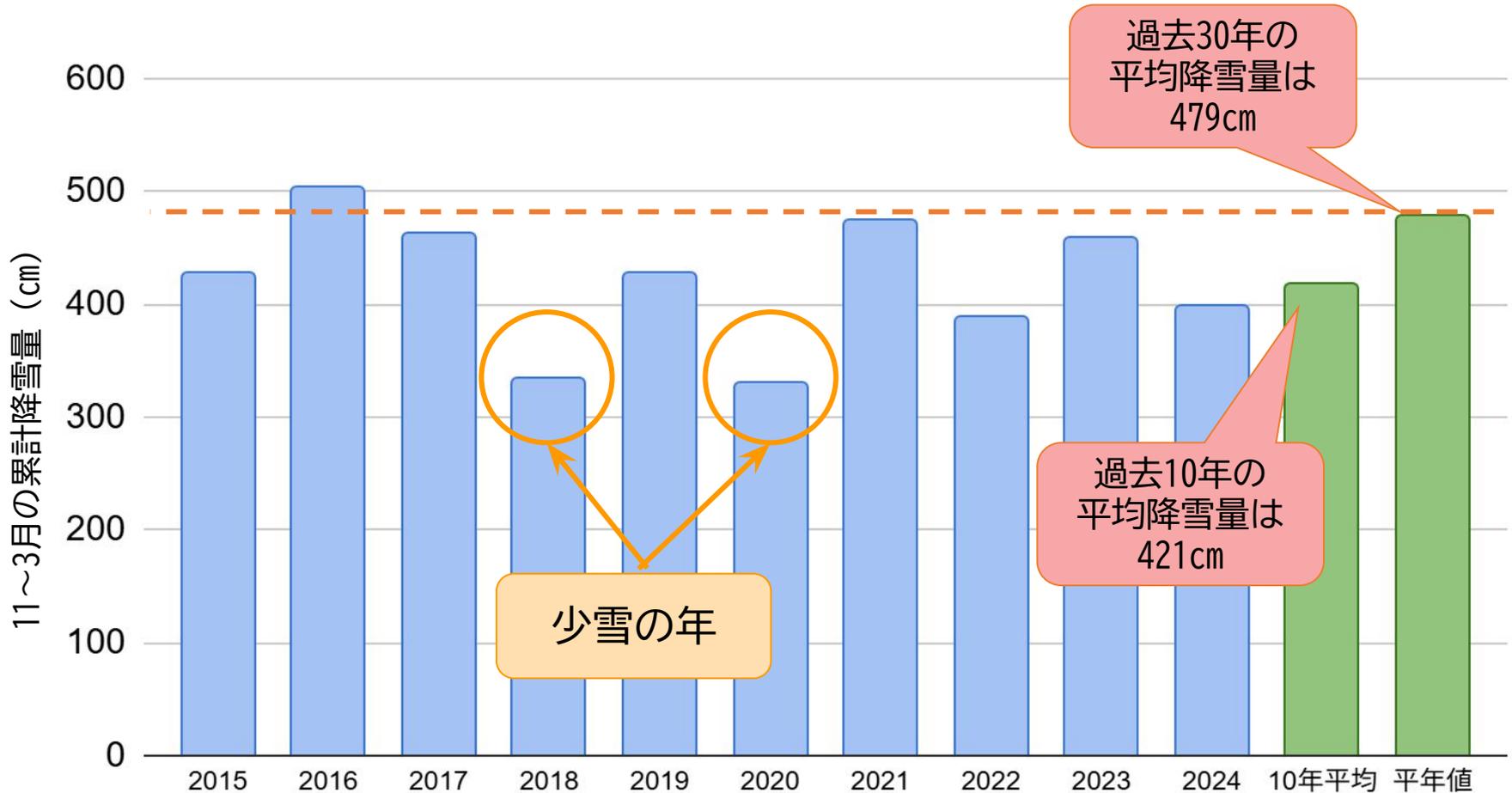
- 1 札幌市の雪対策について
- 2 冬のみちづくりプランに基づく取組について
- 3 大雪対策について
- 4 持続可能な雪対策の在り方検討について



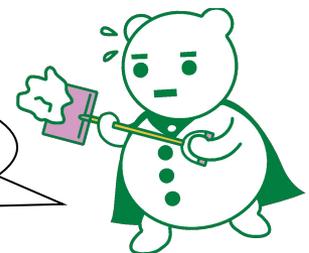
# 1 札幌市の雪対策について

## (1) 札幌市の冬の気象と雪対策の予算

# 札幌市の降雪量



平均降雪量は、過去30年と比べると少なくなってきているね！



# 世界の都市の人口と降雪量

【ロシア】サンクトペテルブルグ  
(人口：約499万人)  
降雪量：297cm

【札幌市】  
(人口：約197万人)  
降雪量：479cm

【ドイツ】ミュンヘン  
(人口：約147万人)  
降雪量：100cm

【カナダ】モントリオール  
(人口：約179万人)  
降雪量：215cm

【オーストリア】ウィーン  
(人口：約190万人)  
降雪量：172cm

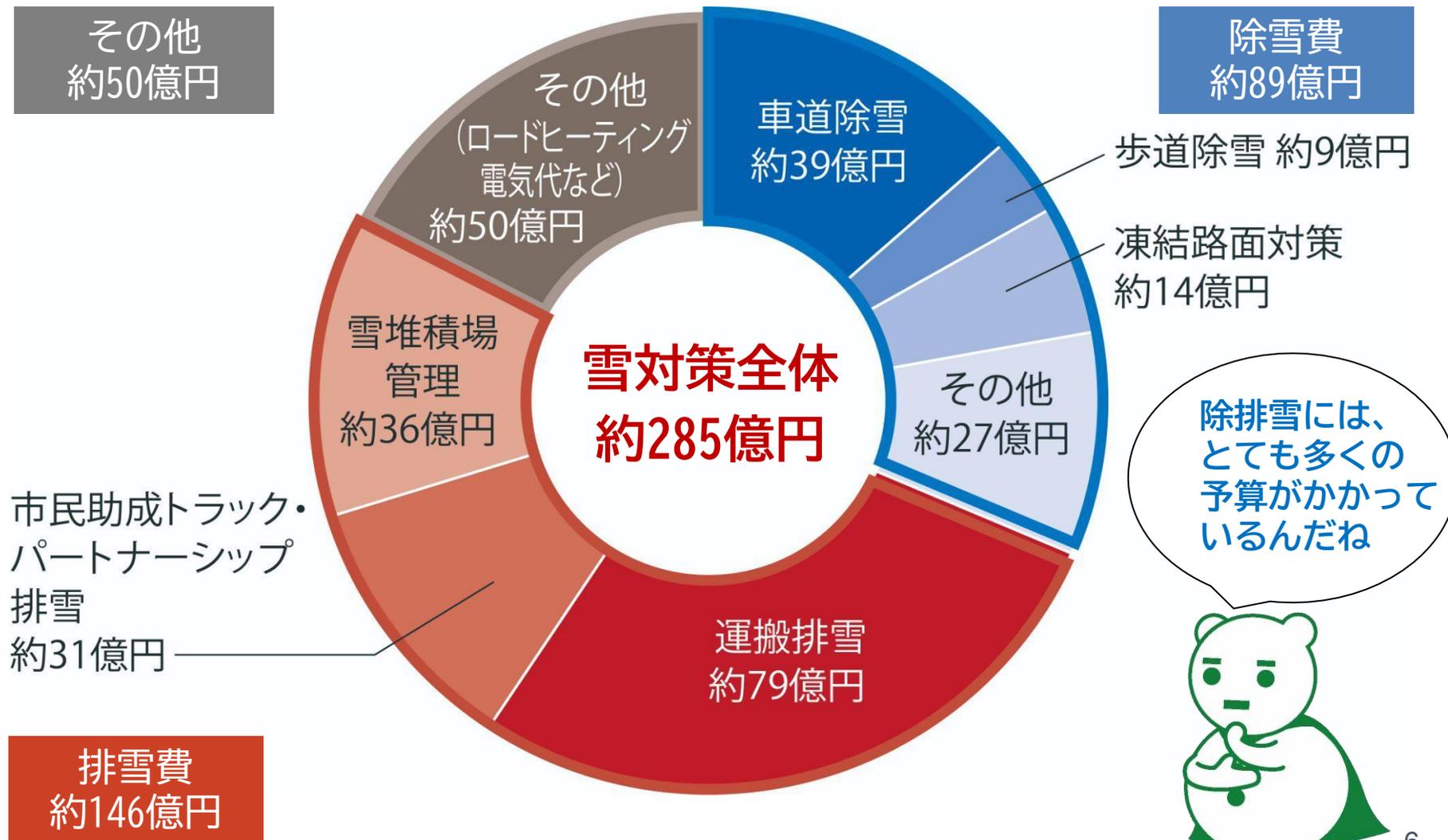
【中国】瀋陽  
(人口：約530万人)  
降雪量：49cm

人口100万人以上で、  
約5mに迫る雪が降っている都市は  
札幌だけだ！

※札幌市の降雪量は、気象台（札幌）の平年値  
世界各都市の降雪量は、昭和63年の調査値  
人口は総務省統計局「世界の統計 2025」より

# 札幌市の雪対策予算

令和7年度予算



- 1 札幌市の雪対策について
- (2) 札幌市の除排雪作業の種類

# 除雪：まとまった降雪があったとき（新雪除雪）

項目	幹線道路	生活道路	歩道 <sup>1</sup>
作業内容	<ul style="list-style-type: none"><li>車道に降った雪を歩道側に寄せる（かき分け除雪）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>道路に降った雪を歩道や住宅側に寄せる（かき分け除雪）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>歩道に降った雪を車道側に積み上げる</li></ul>
出動目安	<ul style="list-style-type: none"><li>ほぼ連続した降雪で、雪の深さが10cmを超えており、車や人の通行に支障が発生すると予想される場合</li><li>交通量が多くて、圧雪による交通障害の発生が予想される場合</li><li>風雪や地吹雪で、吹きだまりの発生が予想される場合</li></ul>		

<sup>1</sup>対象路線：有効幅2.0m以上の歩道のうちJR・地下鉄駅や公共施設周辺などの歩行者の多い場所



幹線道路における新雪除雪



生活道路における新雪除雪



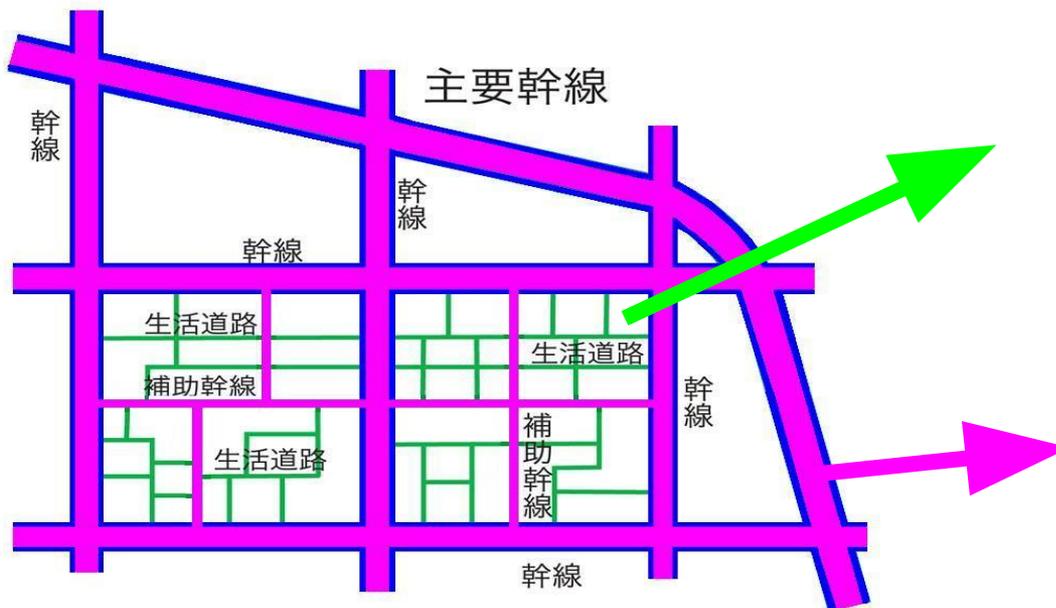
歩道の雪除雪

作業時間：0～6時ごろ（渋滞や事故を避けるため、通勤時間までに実施）

# 道路種別による除雪水準の違い

	圧雪厚	幅員確保
主要幹線	3cm以内	4車線以上
幹線	5cm以内	3車線以上
補助幹線	25cm以内	1.5車線以上
生活道路	30cm以内	1車線+歩行空間以上

※目標とする「圧雪厚」と「幅員」を示したものです。（大雪時は除く）



タイヤショベル



除雪グレーダ

# 除雪：道路がザクザクになったとき（路面整正） 狭くなったとき（拡幅除雪）

項目	路面整正	拡幅除雪
作業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>路面の凸凹やワダチを削って平らにし、削った雪を道路脇に寄せる (家の出入り部に寄せる雪の量は緩和する)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>走行幅員を広げるため、道路脇の雪山の裾をかきとり、山の上に積み上げる</li> </ul>
出動目安	<ul style="list-style-type: none"> <li>路面状況が悪化したとき</li> <li>暖気になり、圧雪がザクザクになったとき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>除雪作業で道路の幅が狭くなったとき</li> <li>次回の新雪除雪の作業に支障があるとき</li> </ul>



路面整正の作業状況



拡幅除雪の作業状況

# 除雪：生活道路のザクザク対策

## 【ザクザク路面の対策にご理解いただきたいこと】

### 1. ザクザク処理の作業には時間がかかります！

⇒ザクザクになった雪や予防的に削る雪は重さや固さがあり、また、玄関や車庫前など人や車の出入りがある場所を極力かわして作業するためです。

### 2. 降り積もって固まった路面の雪を削って、道路脇の雪山に積み上げます！

⇒ザクザク路面は同時多発的に発生することが多く、短期間で効率良く作業をする必要があるためです。

### 3. 雪の置き場がないと作業できません！

⇒削った雪は道路上の交通に支障のない場所に堆積します。

民間排雪や除雪で雪山がなくなっている場所にも雪を置かざるを得ません。

削った雪の置き場についてご理解を。



札幌市 ザクザク路面

検索

# 排雪

- ・市が行う排雪 …幹線道路等の排雪、通学路排雪
- ・地域と市が協働で行う排雪…パートナーシップ排雪など

項目	市が行う排雪		地域と市が協働で行う排雪
	幹線道路等	通学路	生活道路
作業内容	・道路脇の雪山をダンプトラックに積み込み、積んだ雪を雪堆積場や融雪施設へ運ぶ作業		
対象	・交通量の多い幹線道路 ・地下鉄駅等の車が集中する道路	・各学校で指定された通学路の一部	・パートナーシップ排雪を申請した地域など
実施回数	年1回		
時期	1月上旬～2月上旬		1月末～3月上旬



生活道路の排雪作業



雪堆積場

# 排雪：生活道路の排雪支援制度

## 1 パートナーシップ排雪制度

利用団体・除雪業者・札幌市の3者が役割を分担し、連携協力しながら生活道路の運搬排雪を実施する。

### 【役割分担】

- ・札幌市：排雪できる道路か判断、作業日を決定
- ・除雪業者：排雪作業の実施
- ・利用団体：地域で制度の利用を決定、排雪する道路を選ぶ、1月上旬までに制度利用の申し込み、地域負担額の支払い



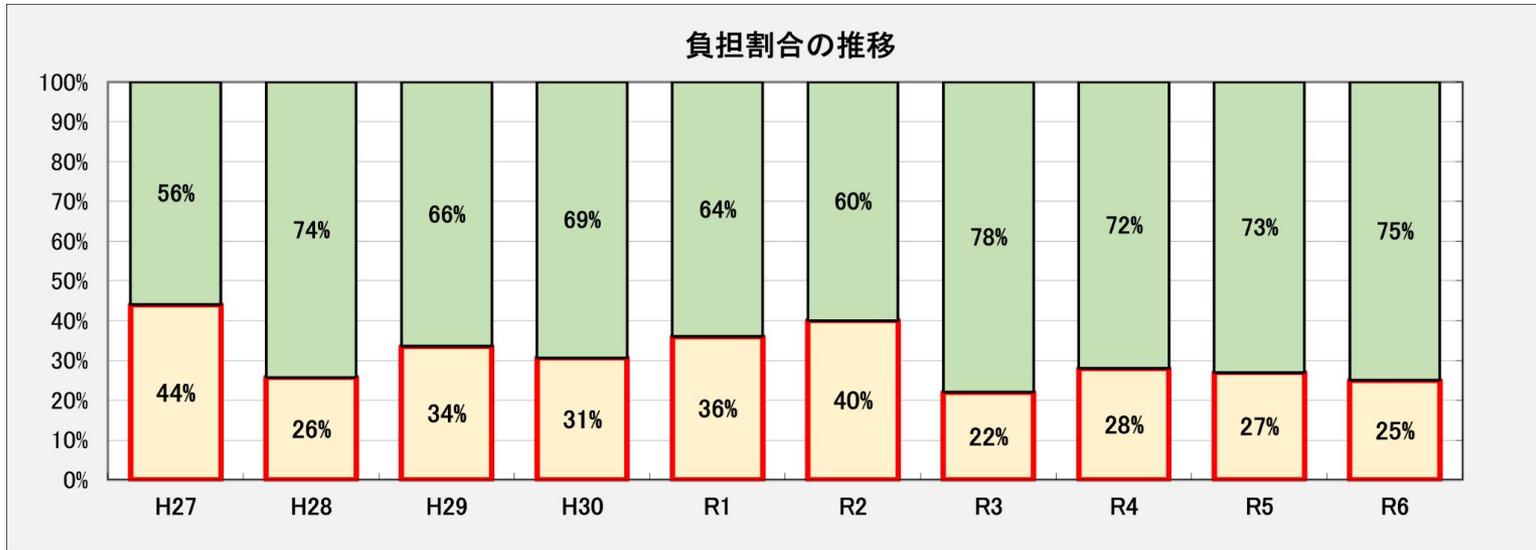
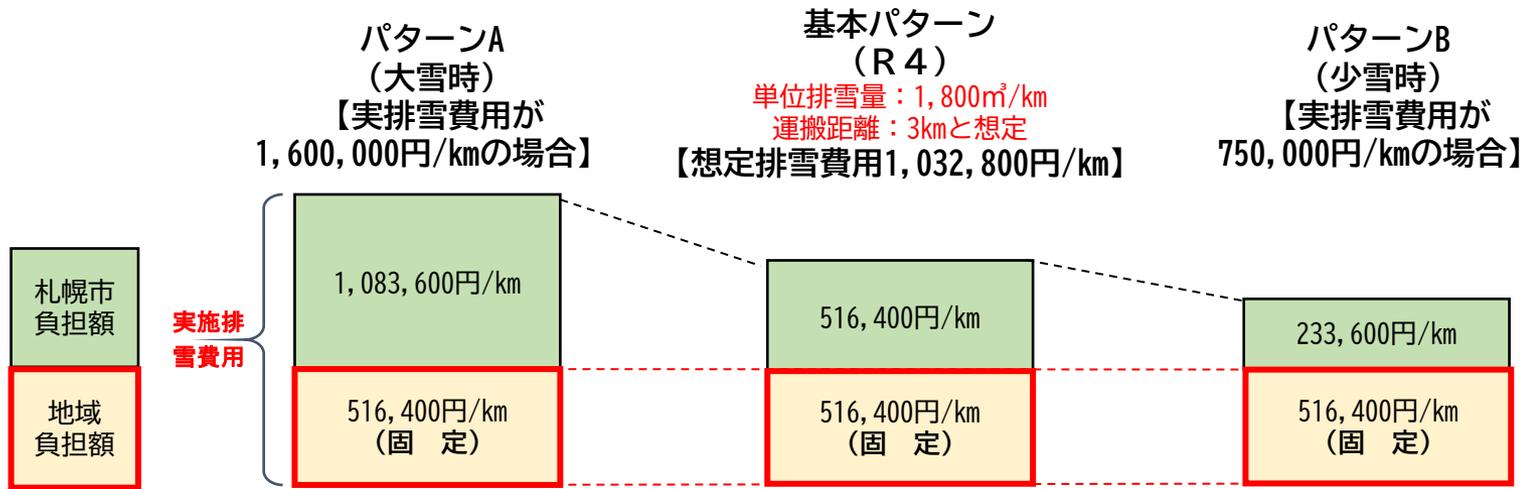
## 2 市民助成トラック制度

町内会などで道路の排雪を行う場合、年1回無料で運搬用トラックを貸し出す制度。

トラックへの雪の積み込み作業は、利用団体が依頼した業者が行う。

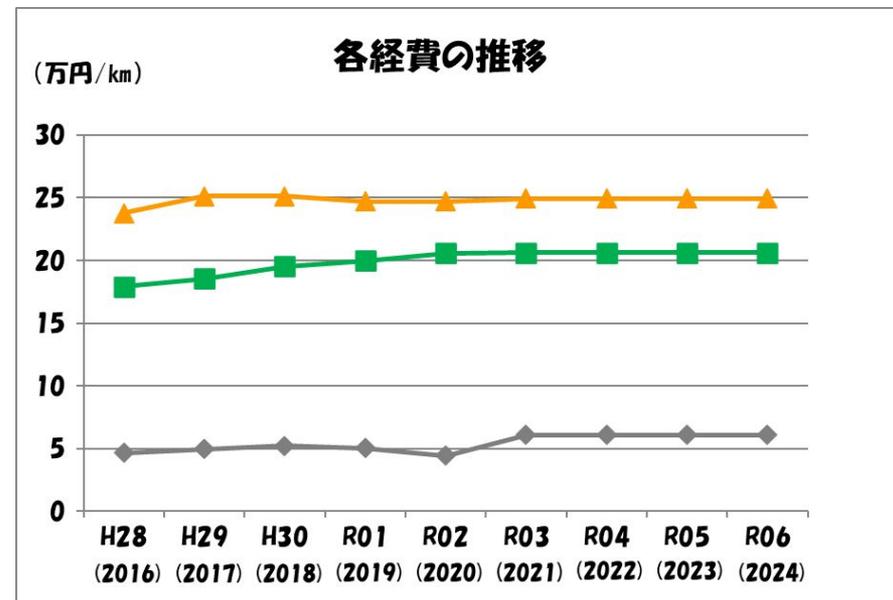
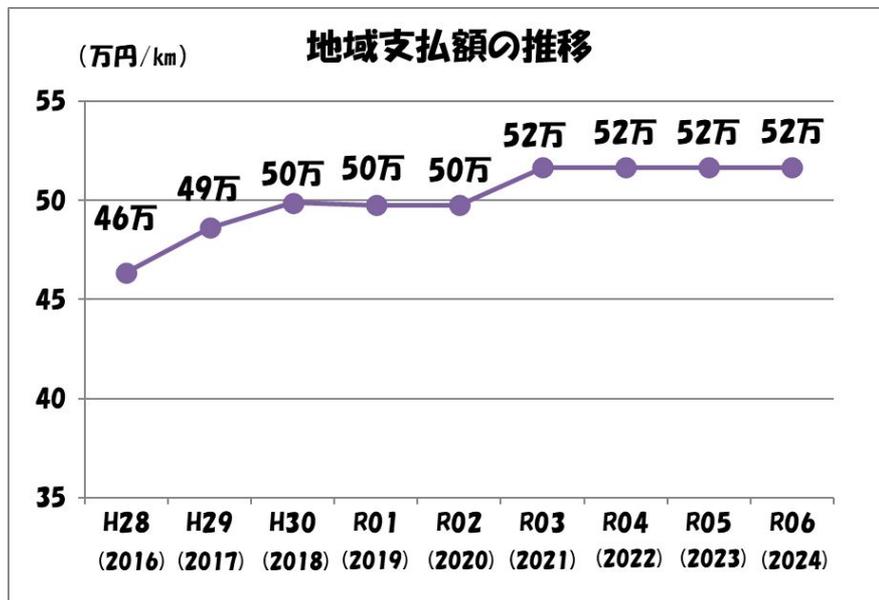
# 排雪：パートナーシップ排雪制度の費用負担

$$\text{実施排雪費用} - \text{地域支払額（定額）} = \text{札幌市負担額}$$

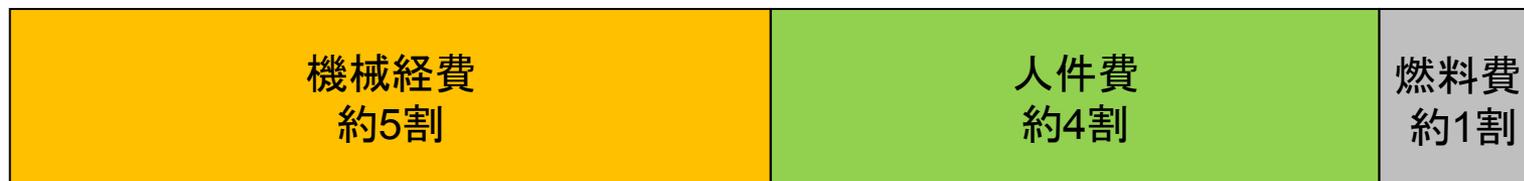


# 排雪：パートナーシップ排雪制度の課題

**労務費・機械損料の上昇**により、1km当りの地域支払額が**増加傾向**  
⇒一部利用団体から費用負担の軽減についての要望書も提出されるなど、  
利用団体は制度利用における費用の捻出に苦慮している。



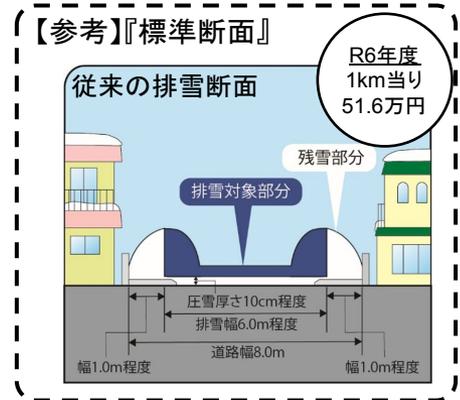
## 地域支払額の構成比率



# 排雪：パートナーシップ排雪制度 排雪断面の選択

市と地域双方の費用負担を軽減するため、  
従来の排雪断面（標準断面）のほかに“**排雪時に雪を多く残し、地域支払額を低減した排雪断面**”を設け、  
地域の実情に応じて選択できるような運用を進めている。

※この他、近年の物価高騰等による地域支払額上昇への当面の  
対応として、令和4年度より地域支払額の据え置きを実施



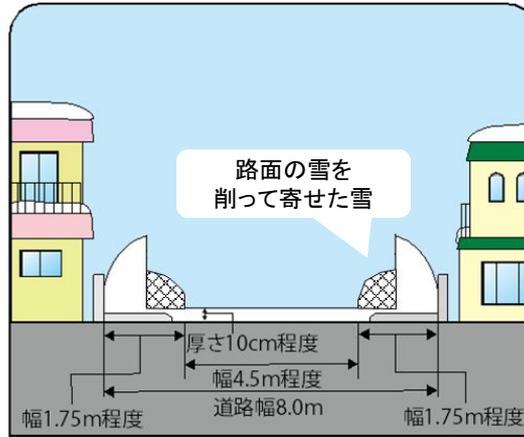
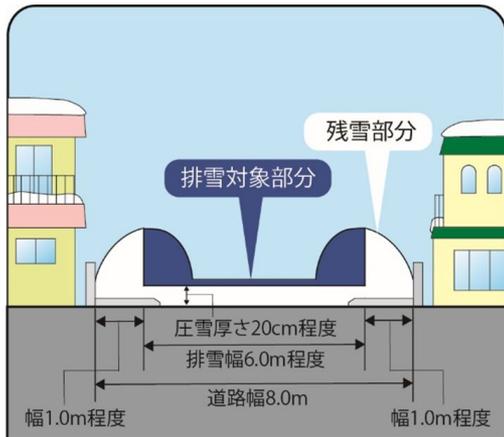
## 『抑制断面Ⅱ型』

- <特徴>
- Ⅱ型-①: 路面の雪は厚く残るが、通行幅はこれまでどおり確保
  - Ⅱ型-②: 通行幅は狭いが、路面の雪はこれまでどおりの厚さ

どちらか寄りの仕上り断面を目標に作業を実施

Ⅱ型-①(雪を路面に残す)

Ⅱ型-②(雪を道路わきに残す)

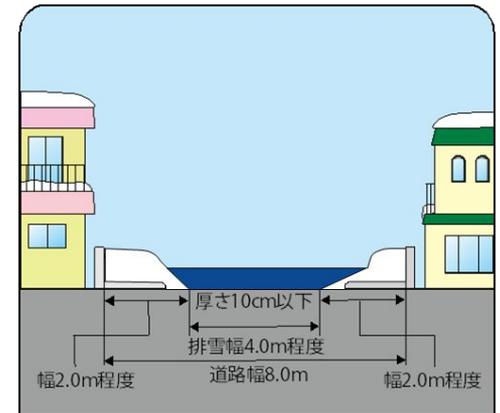


R6年度  
1km当り  
36.15万円

## 『抑制断面Ⅰ型』

- <特徴> 個人排雪の利用率が高く  
道路わきの雪山が小さい  
団体には有効

R6年度  
1km当り  
36.15万円



路面の圧雪を保てる場合

寒い

雪の残し方の違い

暖かい 路面がザクザクになった場合

- 1 札幌市の雪対策について
- (3) 雪対策施設について

# 雪対策施設

## 雪堆積場

## 雪処理施設

### 融雪施設

**融雪槽** 大きな水槽に下水処理水等をためて融雪

**融雪管** 雨水貯留管に下水処理水を送水して融雪

**下水道管投雪施設** 下水道管にダンプで直接投雪

**地域密着型雪処理施設** 下水道管にバックホウで投雪

**流雪溝** 道路下の水路に下水処理水や河川水を流し、市民が投雪

## ロードヒーティング

# 雪対策施設：雪堆積場

令和7年度の開設箇所

計81箇所（公共専用：50箇所、一般受入：31箇所）

※参考 令和3年度実績（最終）

計86箇所（公共専用：54箇所、一般受入：32箇所）⇒2,543万m<sup>3</sup>の雪を受入れ

## 一般受入雪堆積場の開設時期

シーズンを通して利用できるよう、郊外の雪堆積場から順に、  
時期を分けて開設している。

（令和7年度）

- >> 12月 1日開設：5箇所（うち1箇所は2日開設）
- >> 12月10日開設：2箇所
- >> 12月20日開設：13箇所（うち2箇所は21日開催）
- >> 1月10日開設：11箇所

一般受入雪堆積場については、HPや  
雪堆積場ガイド（土木センターで配布）で案内している。



上篠路地区雪堆積場

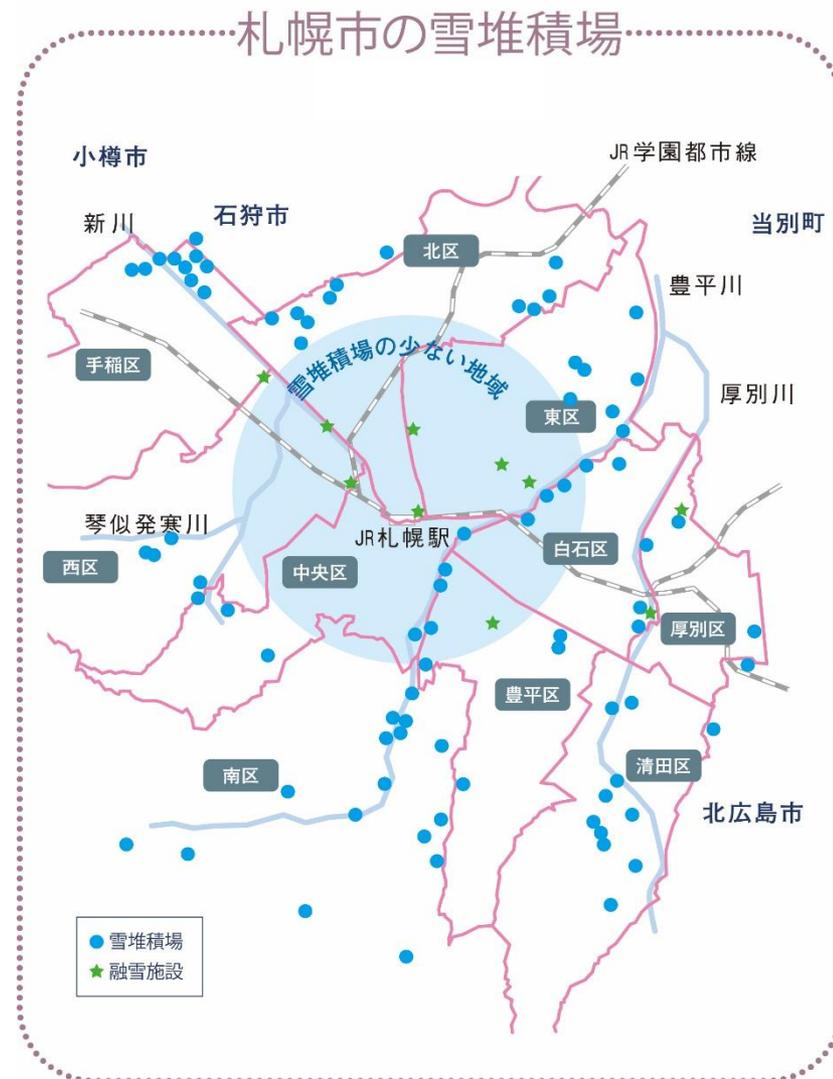
# 雪対策施設：雪堆積場

## 雪堆積場の郊外化

- ・騒音、振動、冷風による迷惑施設との認識
- ・多くが借地に開設しているため、土地所有者の意向により撤退を余儀なくされる



雪堆積場の確保が困難となり、郊外化している。



# 雪対策施設：融雪施設

雪堆積場の補完施設として市街地付近に位置し、作業効率の向上や運搬排雪費の削減が期待される。

融雪槽 3か所

融雪管 2か所

下水道管投雪施設 2か所

地域密着型雪処理施設 3か所

- ・ 令和3年度の大雪時には、融雪施設合計で250万 $m^3$ の雪を受入
- ・ 新川融雪槽では、令和3年度に融雪能力を増強  
(9,000 $m^3$ /日 → 14,000 $m^3$ /日)

新川融雪槽



# 雪対策施設：流雪溝

## 流雪溝

8か所

- 道路の下に水路をつくり、下水処理水や河川水を流し、沿線住民が投雪口に雪を投げ入れる。
- 8箇所合計で、道路延長約21kmに渡り整備。
- 投雪口はおよそ10m間隔で設置。



流雪溝に投雪している様子

# 雪対策施設：ロードヒーティング

## ■設置箇所

- ・車道（坂道）、横断歩道橋などに設置

## ■ロードヒーティング整備の経緯

- ・ S63～H8年：スパイクタイヤ使用規制への対応としてロードヒーティングを整備。
- ・ H10年～：維持管理費や改修費の増大を背景に新しい設置は極力行わず、凍結防止剤の散布等で路面管理を実施
- ・ H14年～：縦断勾配6%以下の区間で停止検討



車道のロードヒーティング

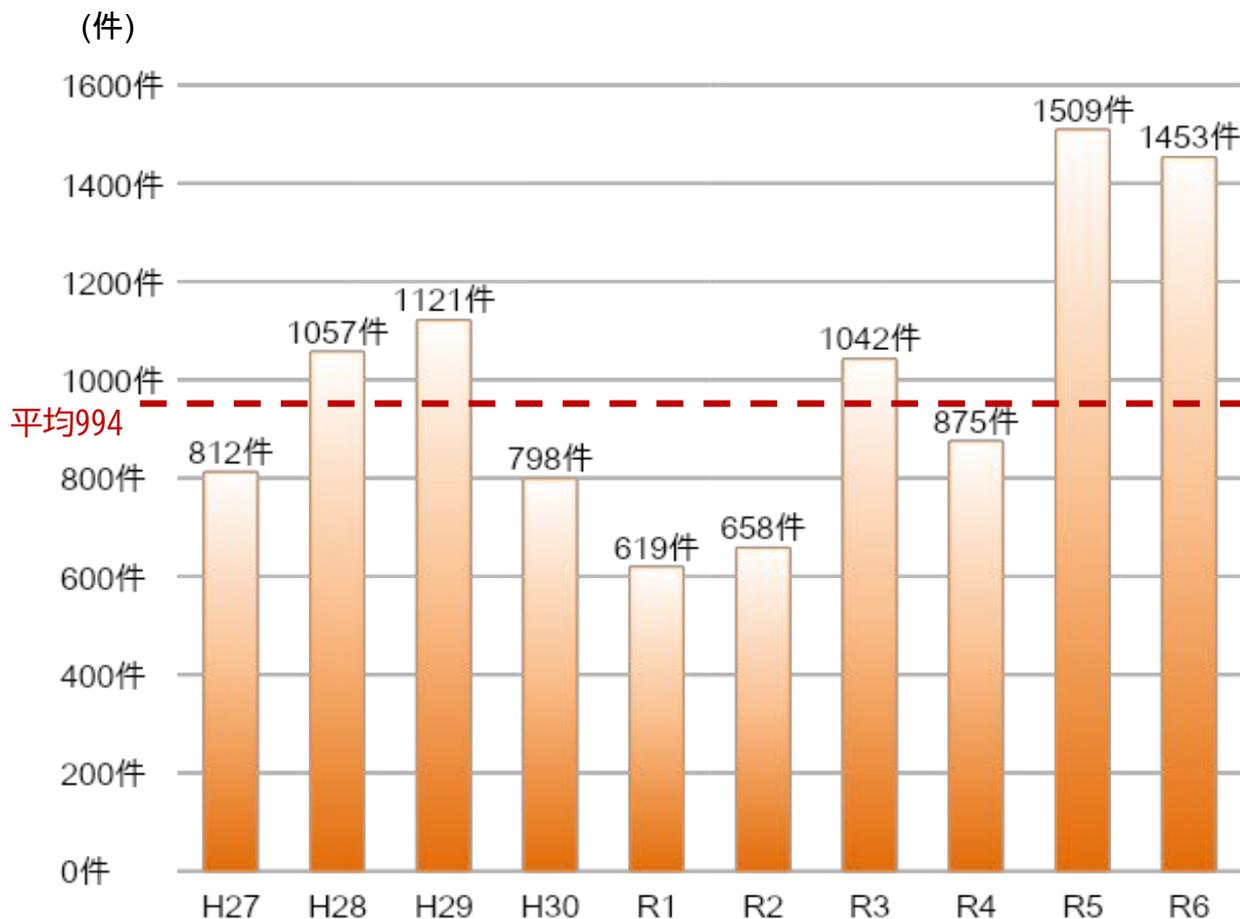
## ■ロードヒーティングは万能ではなく、以下の気象条件では効果が表れないこともある

- ・ 風速：毎秒5m以上の風が吹いているとき
- ・ 降雪量：毎時3cm以上の降雪量が続いているとき
- ・ 気温：-7℃以下の気温になっているとき

- 1 札幌市の雪対策について
  - (4) 凍結路面对策について

# 冬期間の転倒事故

## 「道路上の転倒事故」 救急搬送件数



つるつる路面により、  
転倒事故が多数発生。

10年平均で約1,000人が  
救急搬送される

R6年度はここ数年でも  
件数が多い



ツルツルになった歩道

出典: 札幌市消防局警防部救急課 「雪道の自己転倒」救急搬送概要  
11月から3月の5か月間に道路上で転倒し、救急搬送された件数

# 砂まき活動の推進

札幌市による滑り止め材の散布のほか、市民による砂まきの協力を呼びかけている

- ・ 砂箱は都心部や地下鉄駅の周辺など、人通りの多い交差点を中心に設置
- ・ 砂箱の砂は、誰でも利用することが出来る  
※道路（歩道・車道）への砂まきが対象



## ■春先の砂の回収

- ・ 冬にまいた滑り止め材は、春先に路面清掃車や人力によって回収
- ・ 市民が公共の場所の砂を回収した場合は、無料のボランティア袋に入れてゴミステーションへ出すことが出来る（燃やせないゴミの日）

# 冬みちにおける歩行者転倒事故

## ■歩行者転倒事故の傾向

- ・ 時 間 帯：通勤・通学のピークとなる8～10時の件数が多い  
市内中心部では夜間(20時～25時)の件数も多い
- ・ 年 代：年齢が高くなると転倒による救急搬送のリスクが上昇
- ・ 路面条件：①融解(0℃以上)→再凍結(0℃未満)でつるつる路面が発生  
②氷の路面が降雨や気温で融け、表面の水でつるつるに
- ・ 時 期：①初冬期：冬靴や歩き方などの準備ができていない時期に増加  
②12月：忘年会などの飲酒機会が多い時期に増加

## ■転ばないコツ (ウインターライフ推進協議会)

冬みちを安全・快適に歩くための総合情報サイトやパンフレット等にて  
転倒事故防止に向けた情報提供



<https://tsurutsuru.jp>



## 2 冬のみちづくりプラン2018に 基づく取組について

# 雪対策の主な現状と課題

## 課題①市民ニーズへの対応（市民意識調査結果）

市民意識調査の結果では、今後除排雪に力を入れてほしい道路として、「生活道路」に対する要望が約7割を超え、その生活道路の状況改善のために重視すべき点として、「道路の通行幅の確保」や「道路脇の雪山の高さ・交差点の見通し確保」の改善要望がそれぞれ3割程度。

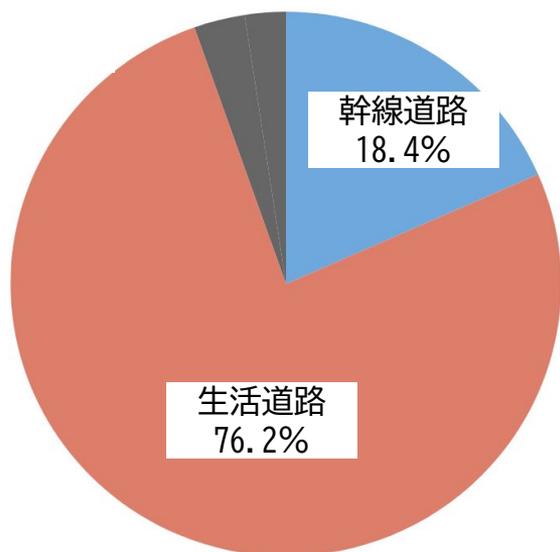


図 令和7年度市民意識調査(札幌市)  
「今後、特に除排雪に力を入れてほしい道路」

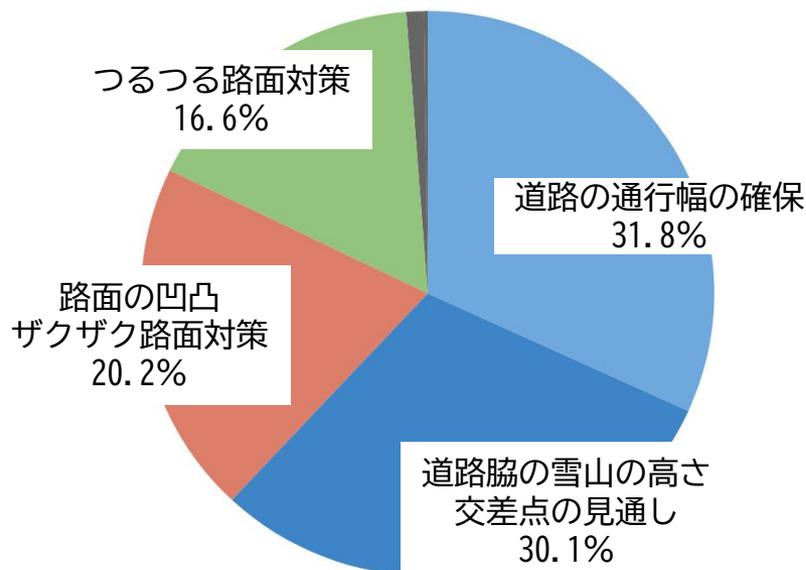


図 令和7年度市民意識調査(札幌市)  
「冬期間の生活道路の状況改善のために重視すべき点」

# 雪対策の主な現状と課題

## 課題②危ぶまれる除排雪体制（除雪従事者の高齢化）

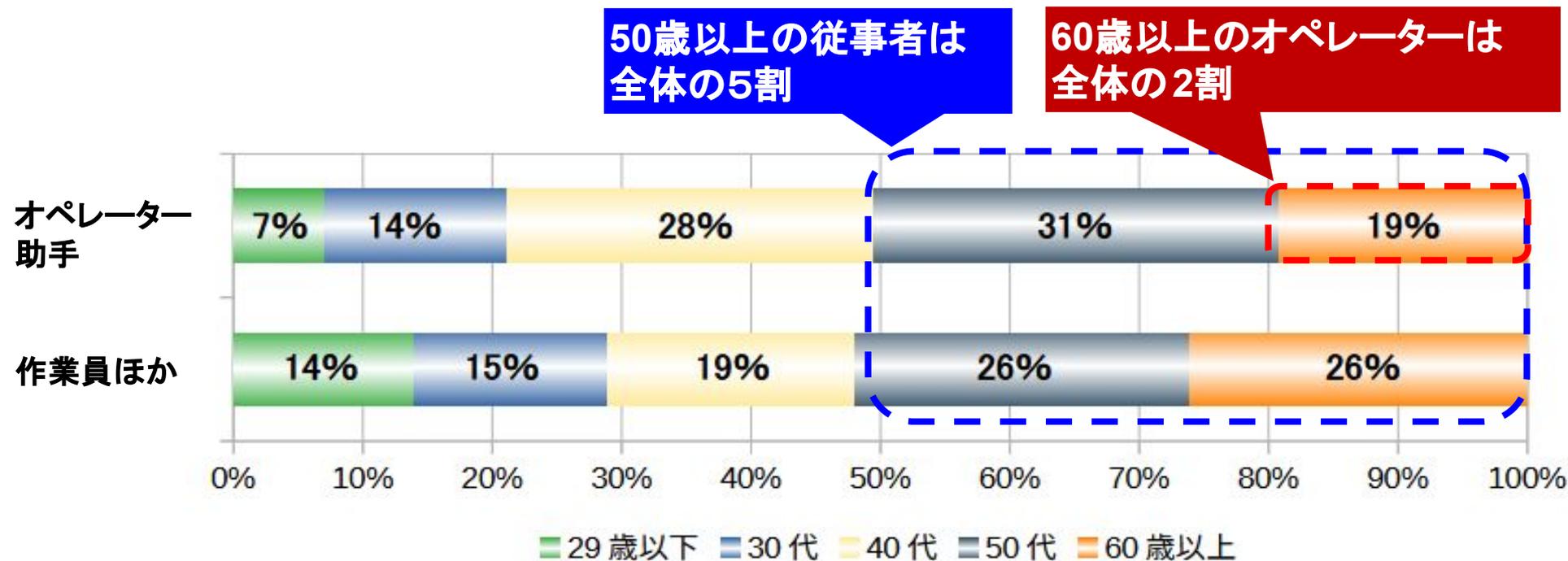


図 - 2022年度の除雪従業者の年齢構成

出展：除雪従事者アンケート調査（札幌市 2022年10月実施）

※ 令和4年度道路維持除雪業務受託者を対象に調査

※ オペレーター・助手の年齢構成割合の合計について、少数第1位を四捨五入し表記しているため100%になっていない。

# 札幌市冬のみちづくりプラン2018

雪対策が抱える課題に対応し、市民の皆さんが将来にわたり安心して安全に冬を過ごせるよう「目指すべき将来」を次のように設定

## 【目指すべき将来】

安心・安全で持続可能な冬の道路環境の実現

## 【取組の視点】

### 視点1

安心・安全な冬期道路交通の確保

### 視点2

除排雪作業の効率化・省力化

### 視点3

除排雪体制の維持・安定化

### 視点4

雪対策における市民力の結集

### 視点5

雪対策に関する広報の充実

視点ごとに重点施策を展開（取組数：全106）

# 視点1 安心・安全な冬期道路交通の確保

## (1) 効果的な除排雪の推進

### 生活道路の除排雪方法変更に向けた検討 ～生活道路除排雪の在り方検討～

パートナーシップ排雪などの排雪支援制度を利用する地域の費用負担感や不公平感の増大のほか、将来的に見込まれている除雪従事者の担い手不足、昨今の在宅介護サービスや宅配などの普及による生活道路の冬季道路環境に対する市民ニーズの変化を受けて、除排雪方法の見直しなどに向けた検討を進めている。

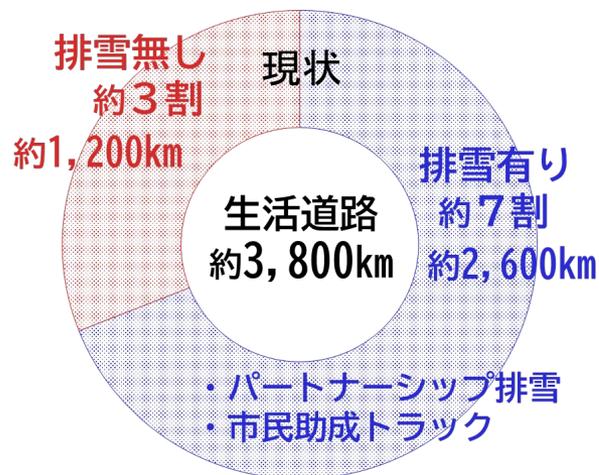


図 排雪支援制度の利用状況

# 生活道路除排雪の在り方検討

New !!

## 令和7年度 生活道路除排雪の試験施工（2区全域を対象）

- 生活道路の除排雪作業と幹線道路の運搬排雪等と工程調整をしながら、面的に区単位まで規模を広げて実施
- ザクザク路面の軽減など「シーズンを通じた冬季道路環境の確保」や「除排雪作業の効率化」「費用負担や不公平感の解消」などの検証を実施

	対象地域	延長
厚別区	全域	約240km
清田区	全域	約330km
2区		約570km



※ 試験施工は厚別区・清田区でのみ実施（地域の費用負担無し）  
その他の区は例年通りの除排雪作業を実施

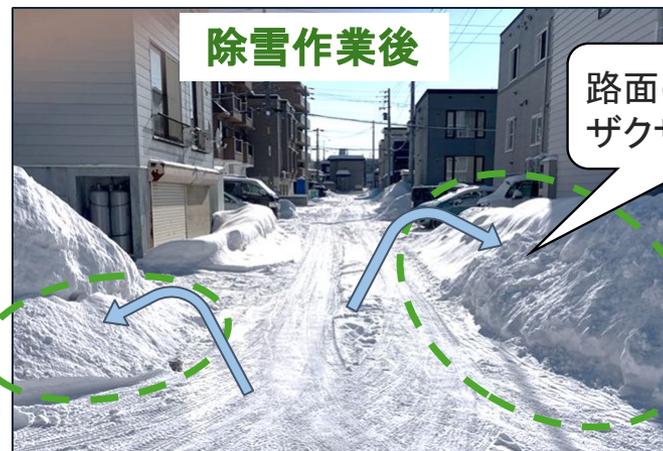
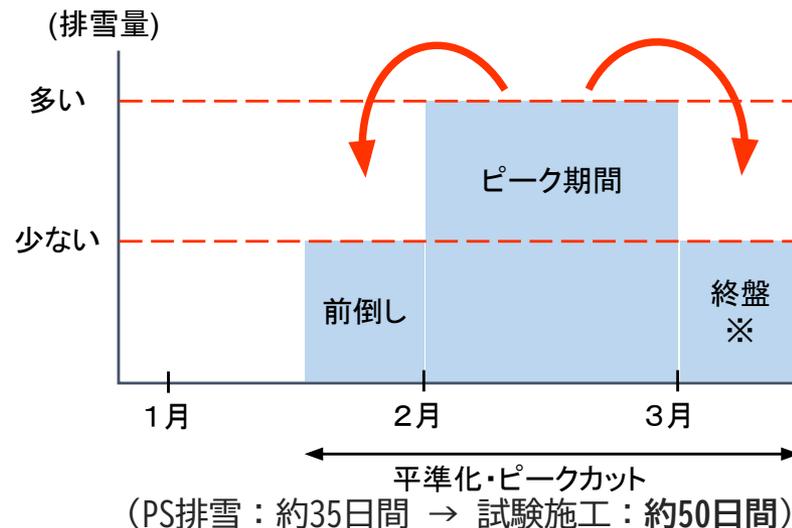
※ 私道など一部対象外あり

# 生活道路除排雪の在り方検討

New !!

## 試験施工の作業ポイント（シーズンを通した冬季道路環境の確保）

- ・ 排雪作業の開始時期を1月中旬頃に前倒し作業期間を拡大することで、作業の平準化やピークカットを図る
- ・ 排雪作業を前倒した地域などでは、降雪や道路状況等により、作業回数は1回に限らない場合も想定※
- ・ 降雪状況などに応じて、作業の優先順位を臨機に変更して対応
- ・ 排雪作業により、除雪作業時の雪置き場を確保し、路面整正と組み合わせその後のザクザク路面を軽減



- ※1 排雪幅は、道路幅の6～7割程度を目安に作業
- ※2 路面の雪は、厚さ10cm程度を目安に作業

# 生活道路除排雪の在り方検討

New !!

## 試験施工の作業ポイント（除排雪作業の効率化）

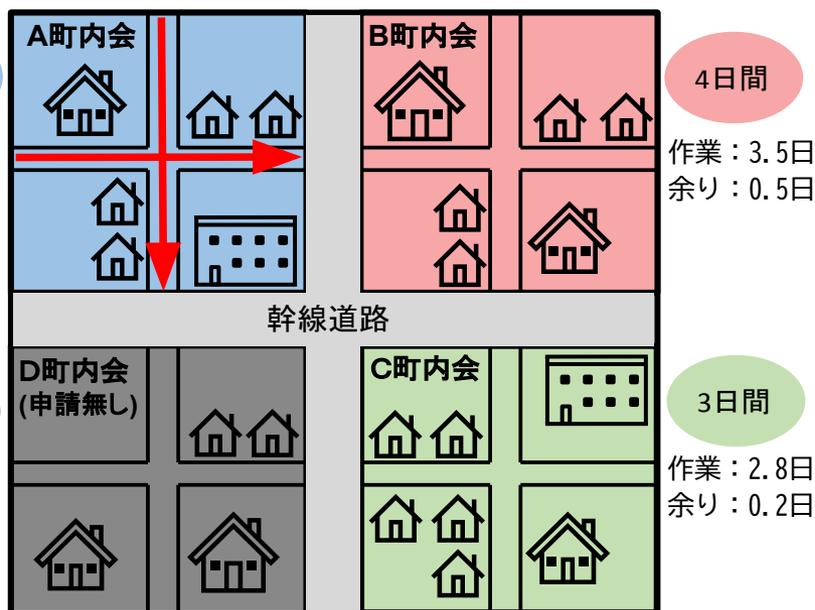
### パートナーシップ排雪制度

- ・ 町内会などの**申請団体毎に排雪作業を実施**
- ・ 申請の無い地域は対象外

### 作業上の課題

- ・ 作業が早く進んだり、キャンセルが発生しても、他の申請団体に移れず、非効率となる場合がある

【作業イメージ】 A町内会→B→Cの順番で実施



延べ日数(A+B+C) **3日+4日+3日=10日間**  
 (うち作業の余り時間0.3+0.5+0.2=1日間)

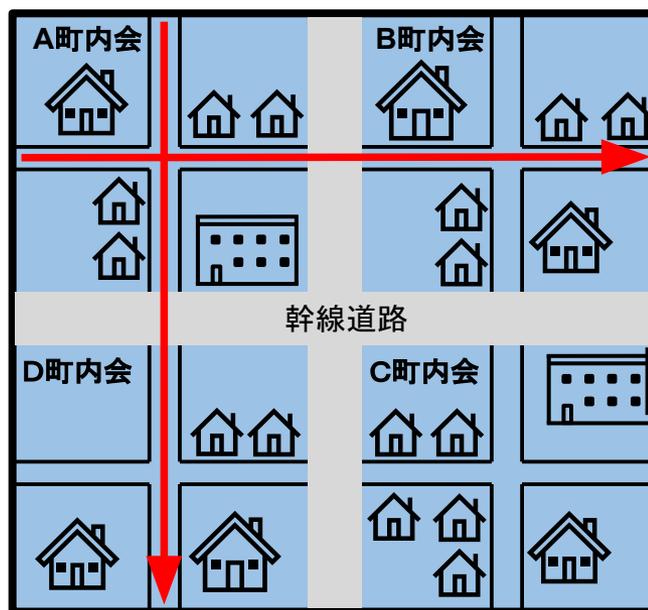
### 試験施工

- ・ 降雪や道路状況などに応じて**道路毎に排雪作業を実施**
- ・ 申請は不要で**全域が対象**

### 想定効果・ねらい

- ・ 作業の余り時間を減らして効率化

【作業イメージ】 A～D町内会の道路毎に実施



延べ日数(A+B+C+D) **10日間** (D町内会も対象)  
 ※ 幹線道路と同様に夜間作業も想定

# 生活道路除排雪の在り方検討

New !!

## 令和7年度 生活道路除排雪の試験施工のまとめ

	通常地域(8区)	試験施工地域(厚別区、清田区)
除雪出動基準	10cmを超える降雪など (かき分け)	10cmを超える降雪など (かき分け)
排雪方法	パートナーシップ 排雪制度等	<u>公共での排雪</u>
排雪幅 (8m道路の場合)	6m程度	<u>道路幅員の6~7割程度を目安</u>
路面の厚さ	10cm程度	<u>10cm程度</u>
地域の費用負担	有り	<u>無し</u>
作業時期	2月上旬~	<u>1月中旬~</u>

### 今後の検討スケジュール(予定)

令和8年度: パートナーシップ排雪制度等も含む、生活道路除排雪の在り方の方向性を整理

※ 令和8年度もパートナーシップ排雪制度を継続しながら議論・検討

令和9年度以降: 令和8年度の方角性を踏まえて、生活道路の除排雪手法を決定

※ 除排雪手法を見直す場合は、地域や除雪事業者の準備・調整等に期間が必要

## 視点2 除排雪作業の効率化・省力化

### (1) 作業の効率化・省力化による生産性の向上

#### 除雪機械の1人乗り化

今後予想される除雪オペレータ不足への対応として、1人乗りでの作業を可能とした除雪機械を導入することで限られた人員でも安全に作業が行える体制を確保する。

#### ① 1人乗り除雪グレーダの導入

安全補助装置を搭載した1名乗車型の除雪グレーダを導入。

#### ② 既存機械への安全補助装置の設置

これまで、安全面を考慮し2名乗車で作業していた除雪機械に、安全補助装置を設置し、1人乗りでの作業を可能とする。



# 視点2 除排雪作業の効率化・省力化

## (2) 雪対策施設の安定的・効率的な運用

### 新たな融雪施設の整備（東部融雪槽）

- 東部水再生プラザの処理水を利用した融雪槽の整備を進める。

#### 想定効果

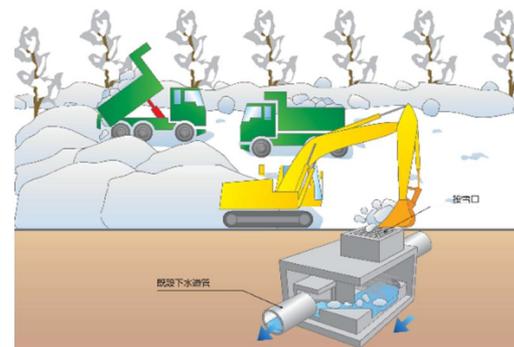
ダンプトラックの運搬距離の縮減  
必要台数の低減

年 度	内 容
R 4	基本検討・基本設計
R 5	実施設計
R 6	工事発注に向けた調整
R 7	整備工事
R 8	整備工事、運用開始

- 未処理下水を利用した地域密着型雪処理施設の整備についても検討を引き続き行う。



東部水再生プラザ



地域密着型雪処理施設

# 視点3 除排雪体制の維持・安定化

## (1) 除雪従事者の定着・育成支援

### 作業日報などの提出書類の電子化

これまで手作業で作成していた作業日報などの提出書類についてICTを活用した電子化を図る。

#### 想定効果

- 提出書類の簡素化
- 除雪従事者の労働時間の短縮

項目	これまで	今後
書類作成	手作業で作成	必要情報を入力
形式	紙媒体	電子データ



## (2) カスタマーハラスメント対策

令和6年9月に策定された「札幌市職員カスタマーハラスメント基本方針」を受け、除排雪業務における対策マニュアルを策定。

対象：札幌市建設局雪対策室、区土木部、除雪センターの職員

# 視点4 雪対策における市民力の結集

## (1) 除雪ボランティア活動の取組強化

### 除雪ボランティアを行う団体への支援

- 小型除雪機や除雪用具の貸出
- 小型除雪機の購入費用の一部補助

### 想定効果

地域の除雪力の向上



小型除雪機による  
地域の除雪

## (2) 歩く人に優しい冬のみちづくり

### 砂まき活動の推進

人通りの多い交差点を中心に砂箱の設置や散布の頻度を増やすなど、市民・企業・札幌市の協働による砂まき活動を強化

### 想定効果

協働の取組による生活環境の改善



砂箱

# 視点5 雪対策に関する広報の充実

## (1) 冬の暮らしに関する広報

### 冬のルール・マナー

冬の暮らしガイドや啓発チラシなどにより、「冬のルール順守」につながる情報を発信

### 想定効果

円滑な交通の確保、作業の効率化

## (2) 多様な手法を活用した効果的な広報・啓発

### 情報発信型の広報

「生活道路の新雪除雪の出動情報」をはじめとした冬の暮らしに役立つ情報を様々な広報ツールを複合的に活用し発信

### 想定効果

- ・ 市民と行政の協力体制の構築
- ・ 快適な冬の暮らしの実現



啓発チラシ



様々な広報ツール

# 3 大雪対策について (令和4年度～)

# 大雪対策のポイント

## ■ポイント 1

「排雪作業の前倒しと強化」（フェーズ毎の対策）

## ■ポイント 2

「雪堆積場等の増強」

## ■ポイント 3

「市民・企業との協働の取組み」

# ポイント1：排雪作業の前倒しと強化

大雪時には「札幌市緊急除排雪実施本部」を設置し、積雪深や気象、作業の進ちよく状況等のフェーズに応じた対策を実施

- フェーズ1 「運搬排雪の前倒しと強化」
- フェーズ2 「応援等による体制強化」
- フェーズ3 「生活道路の緊急排雪」

# ポイント1：排雪作業の前倒しと強化

## フェーズ1「運搬排雪の前倒しと強化」

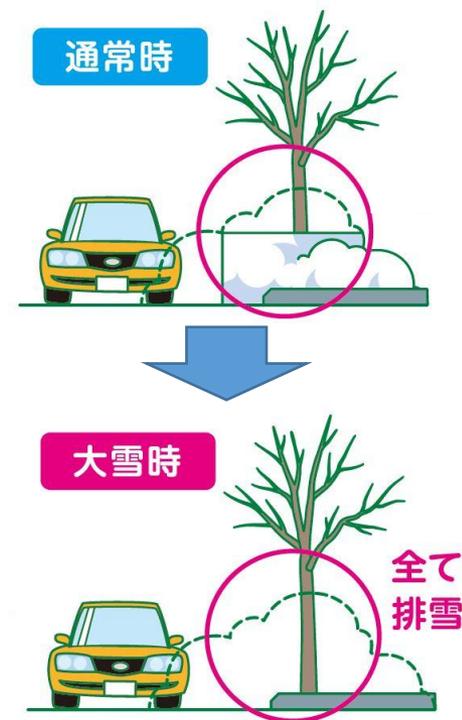
### ■判断の目安

12月から1月上旬に大雪が見込まれる  
(積雪深が50cmに達するなど)

### ■対応策

- ・ 幹線道路の運搬排雪の前倒し
- ・ 道路脇の雪山を全て排雪

※雪山の一部を残す従来の切込排雪から雪出排雪に変更



# ポイント1：排雪作業の前倒しと強化

## フェーズ2「応援等による体制強化」

### ■判断の目安

一部の区でパートナーシップ排雪作業の遅れが見込まれる

### ■対応策

- ・他区除雪事業者による応援
- ・関係団体等に応援を要請



# ポイント1：排雪作業の前倒しと強化

## フェーズ3 「生活道路の緊急排雪」

### ■判断の目安

半数以上の区でパートナーシップ排雪作業の遅れが見込まれる

### ■対応策

- ・パートナーシップ排雪を取止め
- ・札幌市が費用を全て負担して生活道路の緊急排雪を実施
- ・他道路管理者等に応援を要請



# ポイント2：雪堆積場等の増強

## ■事前の対応

- ・ 過去最大搬入量に対応できる雪堆積場容量を確保
- ・ 速やかな緊急用雪堆積場開設に向けた準備



豊平川河川敷地を活用した雪堆積場

【写真：北海道開発局札幌開発建設部提供】

## ポイント 2：雪堆積場等の増強

### ■大雪時の対応

- ・融雪施設の稼働期間を拡大
- ・緊急用雪堆積場の開設
- ・雨水貯留池や未利用公共用地を  
小規模雪堆積場・雪置き場として活用
- ・河川敷地雪堆積場の嵩上げ
- ・公園、学校グラウンドへの雪入れ

## ポイント3：市民・企業との協働の取組み

### ■市民との協働

- ・ 平常時から大雪時のリスクやとるべき行動を周知
- ・ 大雪時の不要不急の外出を控えることを呼びかけ

### ■企業との協働

- ・ 大雪時の時差出勤や出勤抑制への協力の依頼

「札幌市民の皆さまへ大雪時のご協力をお願い」  
(札幌市公式YouTube動画)

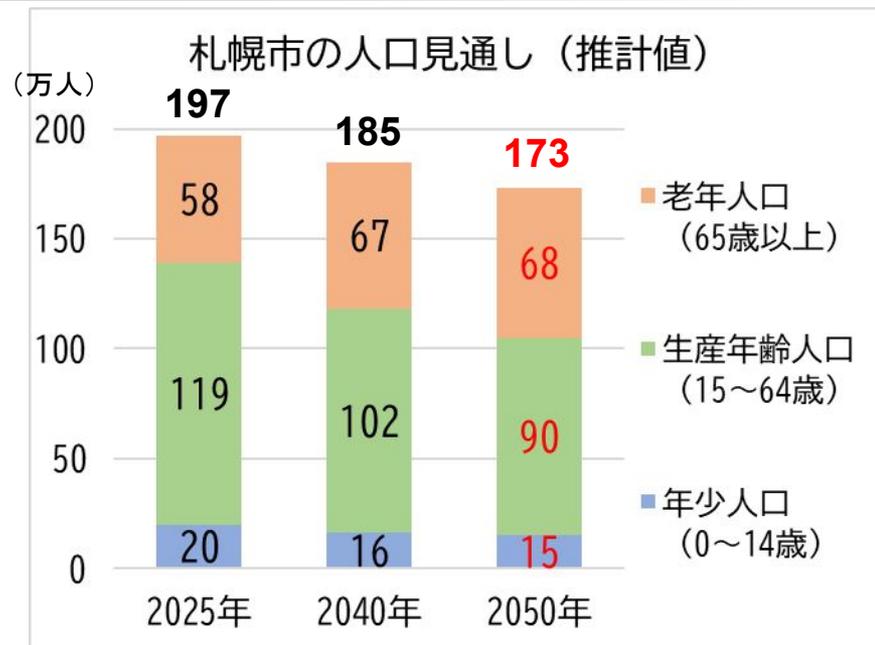


## 4 持続可能な雪対策の在り方検討 について

# 持続可能な雪対策の在り方検討(札幌市雪対策審議会)

## 【背景】

人口減少・高齢化による**担い手不足**、**雪対策費用の増加**(労務費・物価高騰等)の社会情勢の中、適切な冬季道路環境(通行幅・路面)を維持しつつ、大雪・異常気象などの有事の際にも対応できるよう、市民協力も含め、市民生活への影響を最小減に抑えられるような体制の見直しが必要



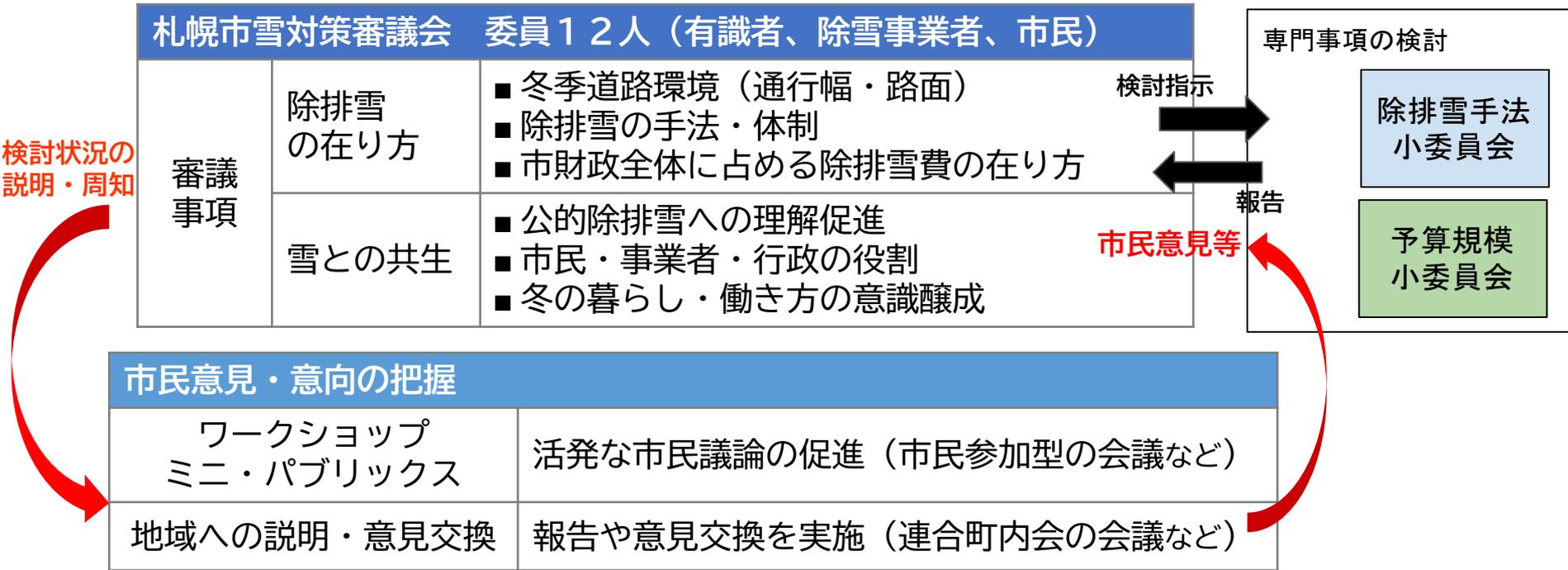
➡将来の担い手不足や税収減に備え、特に冬の市民生活に密接に関係する**持続可能な雪対策**について、**札幌市雪対策審議会にて検討・議論・審議**

## 【課題】

- ① 持続可能な除排雪体制の構築
- ② 市民ニーズや気象の変化に対応した除排雪手法の見直し
- ③ 健全な財政運営の見地から雪対策予算規模の検討
- ④ 雪との共生に向けた市民理解の醸成



# 持続可能な雪対策の在り方検討(札幌市雪対策審議会)



持続可能な雪対策の実現に向けた  
方針・計画

## 当面の目標

令和8年度(2026)	基本方針の策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活道路除排雪の在り方を含む短期的(~10年程度)な雪対策の方針</li> <li>・持続可能な雪対策の長期的(10~30年程度)な展望をまとめた方針</li> </ul>
令和9年度(2027)	基本計画の策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本方針に基づき、現行の札幌市冬のみちづくりプラン2018に代わる今後10年間の具体的な取組をまとめた新たな雪対策の基本計画(2027~2036)</li> </ul>

検討状況等の情報は札幌市公式ホームページをご覧ください。



(札幌市公式ホームページ)

札幌市雪対策審議会

検索

# ～札幌市の雪対策～ おわり

今後も様々な取り組みを通して、  
安心・安全で持続可能な冬の道路環境を  
実現していきます。

